

13 歯科技工士学科学生の口腔衛生への関心

計良倫子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 歯科技工士学生, 口腔衛生, 口腔清掃法

はじめに

本学歯科技工士学科では、歯科衛生士教員による、歯科疾患と口腔清掃法の講義・実習を行っている。歯科技工士学生は将来、歯科技工士として患者一人ひとりに合わせた歯科技工装置を作製し、口腔内状況を向上させることを目的に入学している。そのためには、まず自身の口腔内状況に興味を持つことや、口腔内疾患の基本的な知識を身につけることも必要と思われる。そこで、歯科技工士学生が自身の口腔内状況にどれほどの関心を持っているか、また歯科疾患に対してどのような知識を持っているかについて調査を行い、今後の講義・実習に活かすこととした。

対象および方法

対象は、平成27年度から29年度の歯科技工士学科1年生の学生89名（平成27年度生30名、平成28年度生34名、平成29年度生25名）である。初回講義時（5月）に、歯科疾患と口腔清掃法について無記名式質問紙調査を行った。ただし、無回答の項目があるものは除外することとした。

結果および考察

1日に3回口腔清掃を行うと答えたのは、平成27年度生が34.5%、平成28年度生が62.5%、平成29年度生が32.0%であった。平成28年の歯科疾患実態調査によると、1日3回以上歯を磨く者の割合は27.3%であり、いずれの年度でもこれを上回っている。歯科医療従事者を目指す学生であることから、口腔清掃に対して意識が高い学生が多いと思われる。

デンタルフロスを知っていると答えた学生は、平成27年度生が44.8%、平成28年度生が51.5%、平成29年度生が56.0%であり、そのうち、デンタルフロスを使用したことがあると答えた学生は、それぞれ69.2%、64.7%、64.3%であった。歯間ブラシを知っ

ていると答えた学生は、平成27年度生が89.7%、平成28年度生が81.8%、平成29年度生が92.0%で、そのうち、歯間ブラシを使用したことがあると答えた学生は、それぞれ84.6%、70.4%、65.2%であった。デンタルフロスに比べ、歯間ブラシの認知度が高いのは、テレビコマーシャル等で歯間ブラシという言葉をよく耳にするため、と考えられる。一方、デンタルフロスは歯間ブラシと同じ用途であるにも関わらず、歯間ブラシに比べ認知度が高くないことから、講義や実習において、その使用法や有効性について周知していくことが必要と思われる。

口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病についての問いでは、う蝕については、「歯に穴があく」「痛くなる」という回答が多かったが、中には「ブラーク」や「ミュータンス菌」といった回答も見られた。歯周病については、「赤く腫れる」「歯茎から血が出る」「歯がぐらぐらする」という回答が多かったが、「歯周ポケットに細菌がたまる」や「歯周病から大きな病気になる」といった回答も見られた。う蝕や歯周病については、一般的に知られている知識を持っている学生が多くみられたが、歯科医療従事者として正しい知識を身につけるため、専門用語を取り入れた講義を行い、簡潔かつ正確な説明ができることを目指した講義を実施していく必要があると思われる。

まとめ

歯科技工士学生が自身の口腔内に興味を持ち、正しい口腔清掃法や歯科疾患への技術や知識を身につけることが、将来の歯科医療従事者としての自覚を持つ一助となると思われる。

参考文献

厚生労働省：平成28年度歯科疾患実態調査